

授業科目 聴覚障害 II 演習

【担当教員名】 佐藤 克郎、山口 富一		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 聴覚障害を的確に評価するための各種聴力（覚）検査法を実施に即して習得し、学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 学習記録でもある検査記録を整理し、理解して、学んだ内容を説明できるようにまとめる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	聴力検査にあたって 準備と説明 聴力検査の実際 オーディオメータ、オーディオグラム、閾値の測定法				実技 実技、演習
2,3	純音聴力検査 1) 気導聴力検査 検査法の実際				実技 実習
4,5	2) 骨導聴力検査 骨導聴力、伝音難聴と骨導聴力				実技、演習
6	マスキング				演習
7,8	語音聴力検査				実技、演習
9	自記オーディオメータ				実技
10	自記オーディオメータ				実習
11	閾値上検査： ABLB テスト、SISI テスト				実技
12	域値上検査： " "				実習
13	インピーダンス・オーディオメトリー： ティンパノメトリー、音響性耳小骨反射検査				実技
14	インピーダンス・オーディオメトリー： " "				実習
15	まとめ				レポート
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		聴覚検査の実際	日本聴覚医学会編	南山堂	2009・3,400円＋税
その他の資料		必要の都度配布する			
【評価方法】 出席・演習状況と定期試験から評価する。			【履修上の留意点】		